

～幼保小の子どもの学びと育ちをつなぐ～

# 架け橋通信



令和6年度 第6号  
(令和6年4月発行)

京都市教育委員会 学校指導課  
幼保小の架け橋プログラム担当

TEL:075-222-3746

## 再認識! スタートカリキュラム!!

みんなが安心、みんなが育つ! やってみると、こんないいこと!!

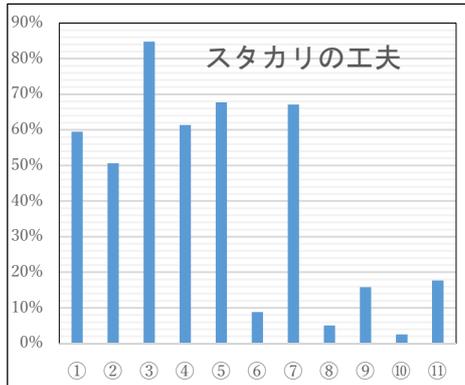
**スタートカリキュラムとは**、小学校へ入学した子どもが、幼稚園、保育園(所)、認定こども園などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、自己を発揮する学習・生活環境を整え、子どもの「安心」「成長」「自立」をさらに繋げる入学当初のカリキュラムです。

学習指導要領総則には、「特に、小学校入学当初においては、幼児期の遊びを通じた総合的な指導を通じて育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、スタートカリキュラムを児童や学校、地域の実情を踏まえて編成し、その中で、生活科を中心に、**合科的・関連的な指導**や**弾力的な時間割の設定**など、指導の工夫や指導計画の作成を行うことが求められる。」と示されています。

一方、昨年11月に実施した本市アンケートにおいて、「**スタートカリキュラムを実施している**」と回答した小学校は全校の**約60%**に留まっています。さらに、

そのなかで文部科学省が中心的な取組として提唱している「**合科的・関連的な学習指導**」「**弾力的な時間割**」を実施していると回答しているのは**50~60%**にとどまっています。

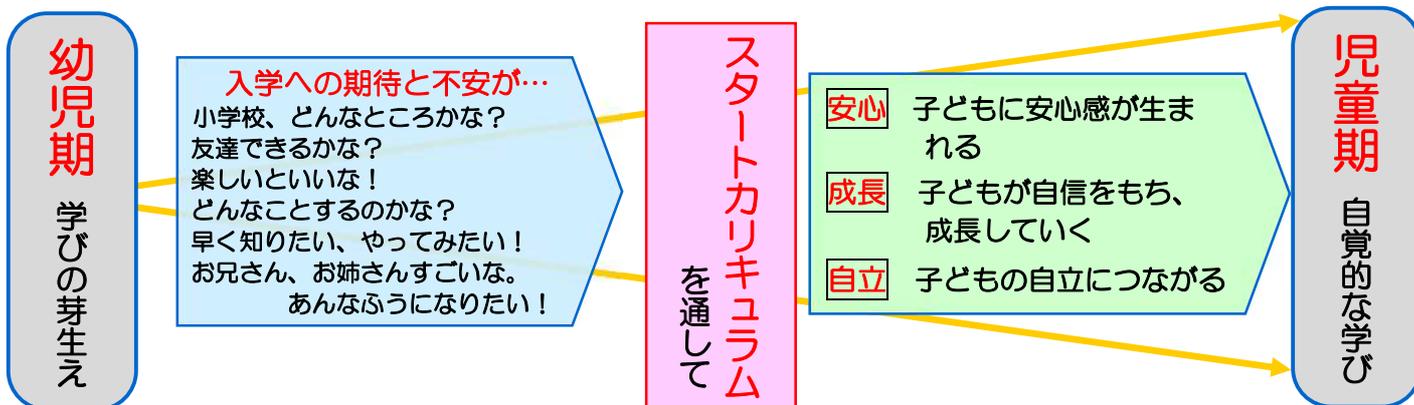
こうしたもと、本号ではスタートカリキュラムを取り上げました。全小学校において、スタートカリキュラムについて再認識し、新年度からスタートカリキュラムに取り組み、1年生の子ども達が主体的に自己を発揮できる環境を創り出されることを期待しています。



① 弾力的な時間割
② 合科的・関連的な学習指導
③ 学校生活のきまり等の指導
④ 自覚を促すための学習指導
⑤ 週予定表等による予告
⑥ 就学前の生活環境等の導入
⑦ 自校教員による読み聞かせ等
⑧ 保育者の協力による読み聞かせ等
⑨ スタカリの保護者周知
⑩ 就学前施設にスタカリを発信
⑪ スタカリを全校体制で

R5.11月実施アンケートより

キーワードは「**安心**」「**成長**」「**自立**」～子どもが明日も来たくなる学校づくりのために～



**安心**…幼児期に親しんだ活動や学びやすい環境づくりをすることで、子どもは安心して小学校生活をスタートすることができます。

**成長**…幼児期の経験を小学校の学習につなぐと、子どもは自信や意欲をもって活動し自己発揮できるようになります。また、その姿を認められることで、さらに成長していきます。

**自立**…子ども主体の学習活動を大切にすることで、子どもは、自分で考え、判断し、行動することを繰り返し、自立に向けて歩んでいきます。それは、小学校6年間の土台となります。

れっつ! ちゃれんじ!!

# スタートカリキュラムをデザインし実践しよう!

各小学校において、スタートカリキュラムを編成・作成(デザイン)する際のポイントを、下記の5点にまとめました。

## (1) 幼児の発達や学びを理解し、期待する児童の姿を共有する

- 幼児の発達や学びの姿を把握する。
- 「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を踏まえ、スタートカリキュラムで**期待する児童の姿**を明らかにする。

## (2) 学校全体での取組とする

- スタートカリキュラムの**必要性**を、**学校全体**で理解する。
- 1年担任だけでなく、**全校**で**取り組む体制**をつくる。
- どの単元、行事等で**取り組むのか**年間計画を検討する。

## (3) 時間割の工夫①【合科的・関連的な指導の充実】

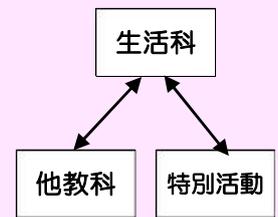
○幼児期の教育とのつながりや児童の発達の特性を踏まえ、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるよう、**生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫**を行う。

### (合科的な指導)

生活科を中心とした単元の学習活動において、複数の教科の目標や内容を組み合わせて学習活動を展開することで、指導の効果を高める。

### (関連的な指導)

生活科の学習成果を他教科等の学習に活かす。または、他教科の学習成果を生活科の学習に活かす。例：国語科「なんていおうかな」で学習した挨拶の仕方や質問の仕方、生活科「いちねんせいが はじまるよ(たんけんしてみよう)」の時間に実際に体験させ、国語科での学習を活かしつつ、学校にはいろいろな先生が仕事をしていることや、就学前施設にはない様々な施設があることに気づかせ、小学校生活への期待を膨らませる。



## (4) 時間割の工夫②【弾力的な時間割の設定】

○入学時の児童の実態や活動内容に応じて45分の授業時間にとらわれず、**20分や15分程度のモジュール**を取り入れるなど、**単位時間を柔軟に考えてスタートカリキュラムを計画**する。

モジュールを取り入れ、子どもの実態に応じて、15分、30分と集中する時間を長くし、徐々に45分の授業に慣れるようにする。

例：45分間の中で国語科、音楽科、体育科等の複数の教科を行うことで、児童が集中してそれぞれの活動に取り組むことができます。

○学習内容や単元の特性だけでなく、子どもの実態、天候、行事等に応じて弾力的に時間割を設定することが大切。



## (5) 学習への興味・関心を大切にする

- 国語や算数等の教科学習において、遊びの要素や身体活動を取り入れたり、絵本などの教材や児童が操作できる教具(例：算数科「わくわくがっこう」でたんぼぼや車の絵カード)を使うなど、児童の**興味・関心**を高める学習の工夫が求められる。



## (6) 家庭や保育園・幼稚園等との連携

- スタートカリキュラムの意義や具体的な指導についての保護者への説明が重要。入学式や懇談会の他、連絡帳や学級通信等で家庭との連携を図る。
- 保育園(所)・幼稚園等に児童の様子や授業を参観してもらい、幼保からのヒントやアドバイスを参考に、スタカリの成果と課題を把握する。その結果をカリキュラムの修正・改善に生かす。

## スタートカリキュラム参考資料



## 【文科省発行冊子】

「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム」(文部科学省・国立教育政策研究所)



「スタートカリキュラムスタートブック」(文部科学省・国立教育政策研究所)



【研修動画】  
上記3つの動画は、SMARTPORTALで視聴可能。

【スタカリの手引】  
光京都イントラ、学校指導課のページに掲載。  
R6に改訂予定。

今年度から教科書も改訂されました。1年生の教科書もスタートカリキュラムを意識したものとなっています。これを良い機会と捉え、各校のスタートカリキュラムの充実・改善に取り組みましょう!!